

2009年3月期
第1四半期決算説明会

2008年8月4日
ヤマハ株式会社

■ 1Q業績は、対前年同期、前回予想(4/30発表)とも減収減益

■ 対前年同期

- ・売上高は、8.8%(119億円)の減収。事業譲渡影響(▲68億円)、為替影響(▲48億円)除けば、対前年同期0.2%(3億円)の減収
- ・営業利益は、円高に伴う為替損の発生、退職給付債務の利差損の発生等で、17億円の減益

■ 対前回予想

- ・売上高は、為替影響(+11億円)を除いた実質ベースで2.7%(34億円)の減収。
- ・営業利益は、減収に加え、材料価格の上昇等による売上総利益率の低下で減益

■ 在庫

- ・1Q末在庫は、対前年同期59億円の減少。電子金属事業の譲渡(45億円)、為替影響(49億円)を除けば、対前年同期、35億円の実質増加。前回予想に対しては実質48億円の増加。楽器、半導体等の増加が主因

▶ 対前年同期、前回予想とも減収減益

(億円)

	08/3 (1Q) 実績	09/3 (1Q) 実績	前年同期比	前回予想 (08/4/30)	前回予想比
売上高	1,352	1,233	▲8.8%	1,256	▲1.8%
営業利益 (営業利益率)	73	56 (4.6%)	▲22.7%	73	▲23.0%
経常利益 (経常利益率)	75	57 (4.6%)	▲23.9%	66	▲13.5%
当期利益 (当期利益率)	232	11 (0.9%)	▲95.4%	41	▲74.1%

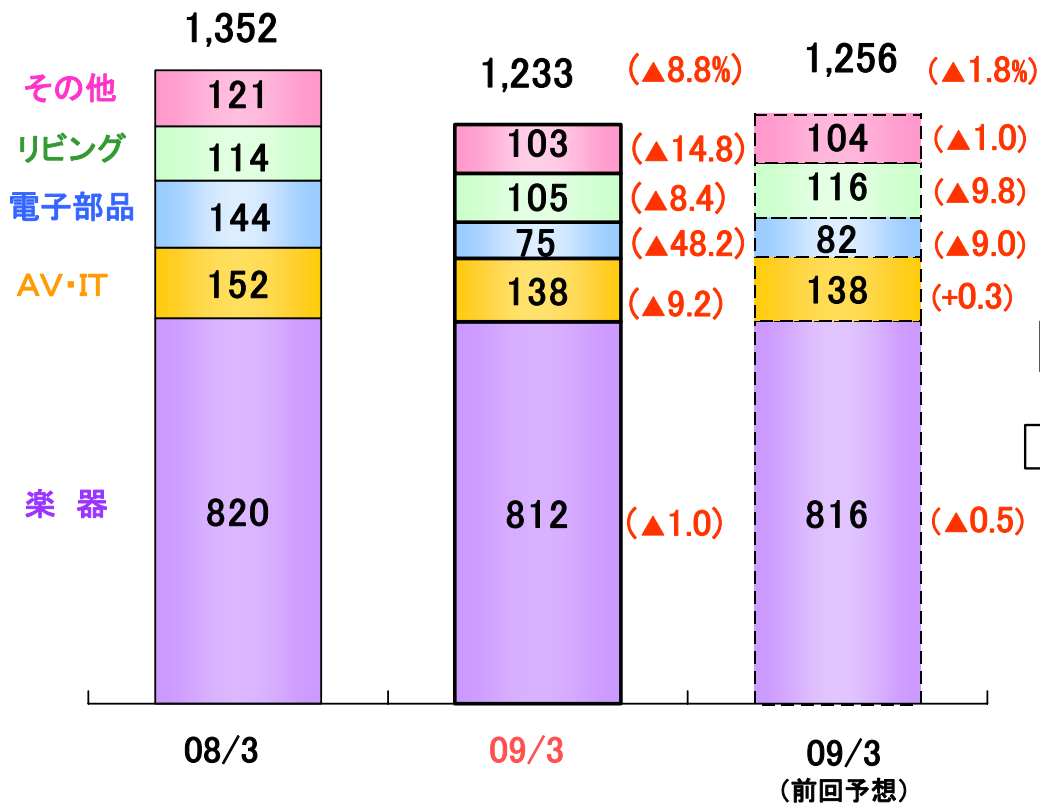
為替レート

売上高	US\$	121	105	100
	EUR	163	163	155
利益	US\$	120	104	100
	EUR	156	155	155

2009/3期 1Q事業別業績

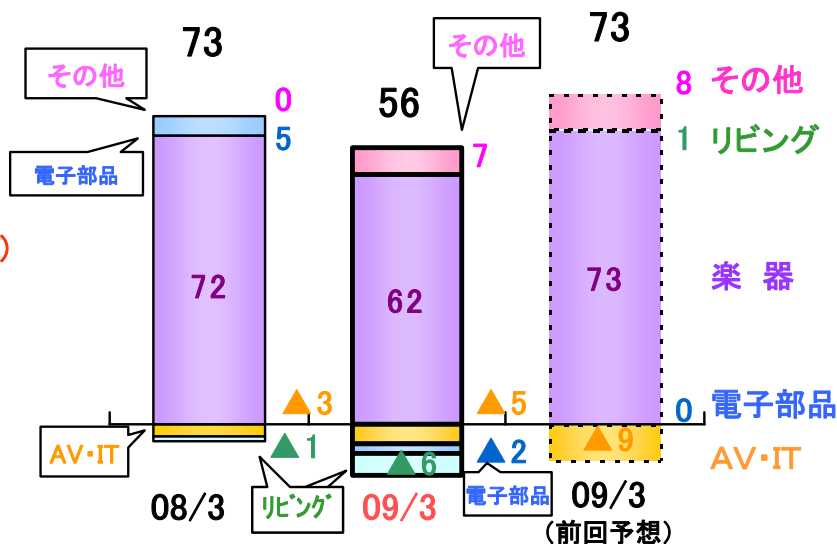


売上高



営業利益

(億円)



前年同期との比較での為替影響は▲48億円
 (楽器▲38億円、AV・IT▲8億円、半導体▲2億円)
 また、前回予想との比較では+11億円
 (楽器+6億円、AV・IT+4億円)

前年同期との比較での為替影響は▲9億円
 (楽器▲8億円、AV・IT▲1億円)
 また、前回予想との比較では±0億円
 (楽器±0億円、AV・IT±0億円)

()内は前年同期比
 または
 前回予想比

*08/3期の電子部品には、電子金属を含む。

2009/3期 通期業績予想



➤ 通期業績を下方修正

➤ 2～4QのUS\$、EUR為替レートは各々105円、160円を前提

(億円)

	08/3 実績	09/3 予想	前年同期比	前回予想 (08/04/30)	前回予想比
売上高	5,488	5,330	▲2.9%	5,400	▲1.3%
営業利益	328	305	▲7.1%	350	▲12.9%
経常利益	326	285	▲12.5%	320	▲10.9%
当期利益	396	165	▲58.3%	205	▲19.5%

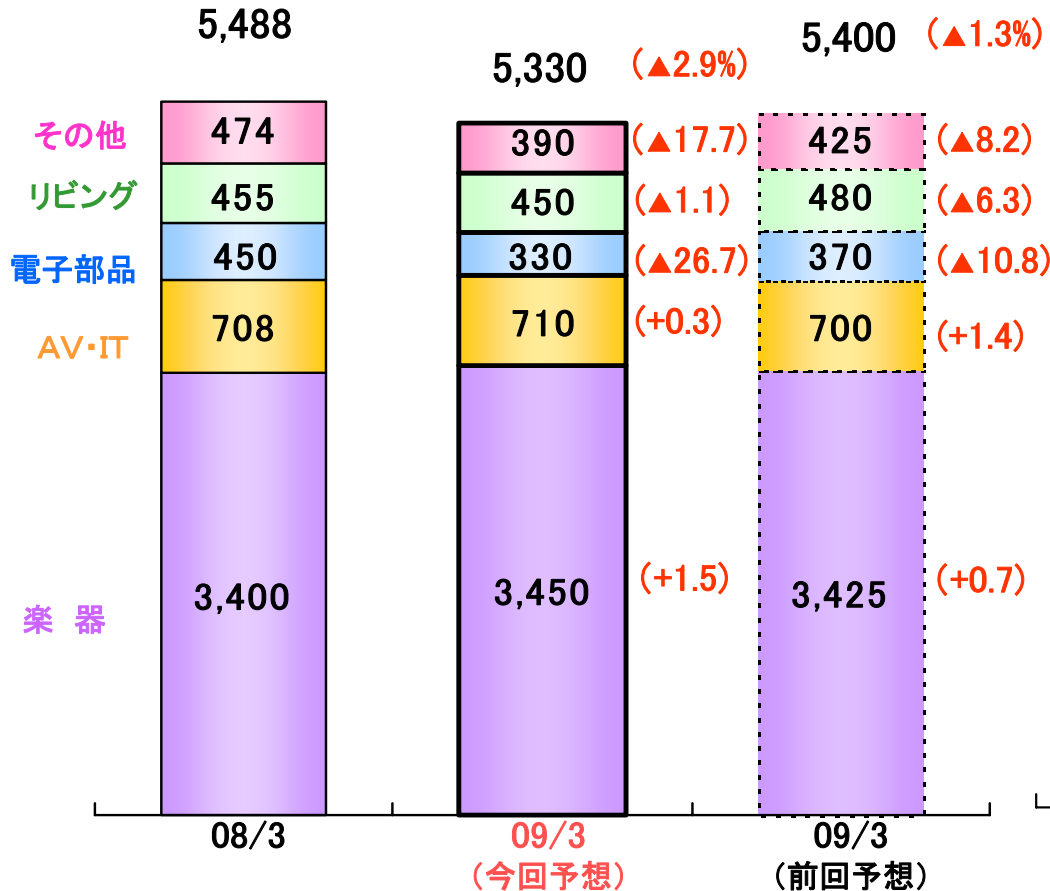
為替レート

売上高	US\$	114	105	100
	EUR	162	161	155
利益	US\$	116	105	100
	EUR	159	159	155

2009/3期 通期事業別業績予想

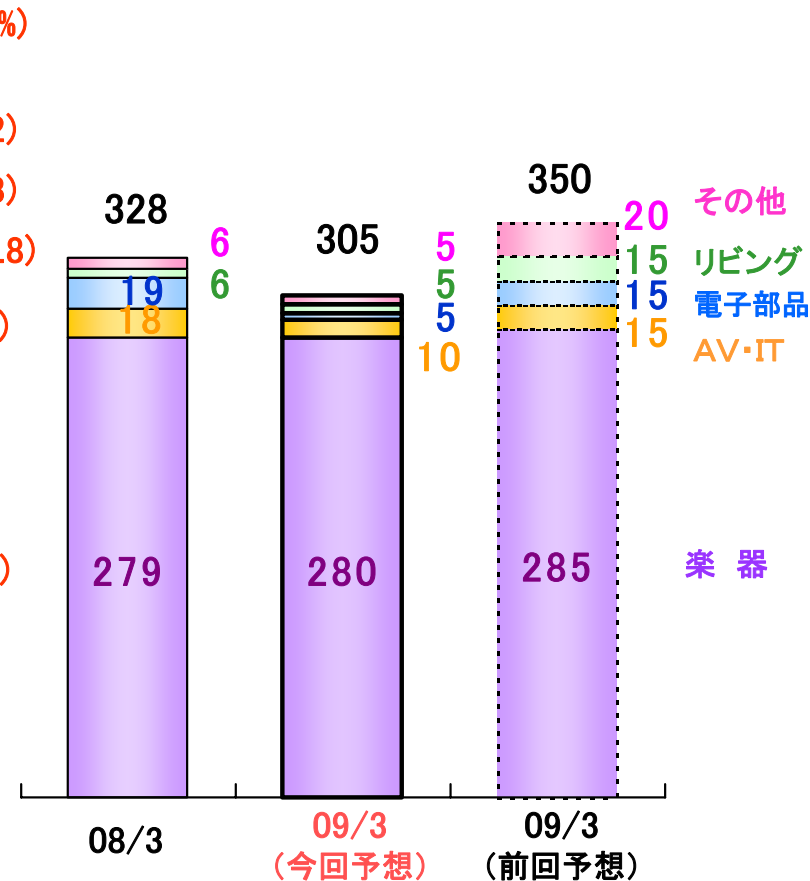


売上高



営業利益

(億円)



()内は前期比
または
前回予想比

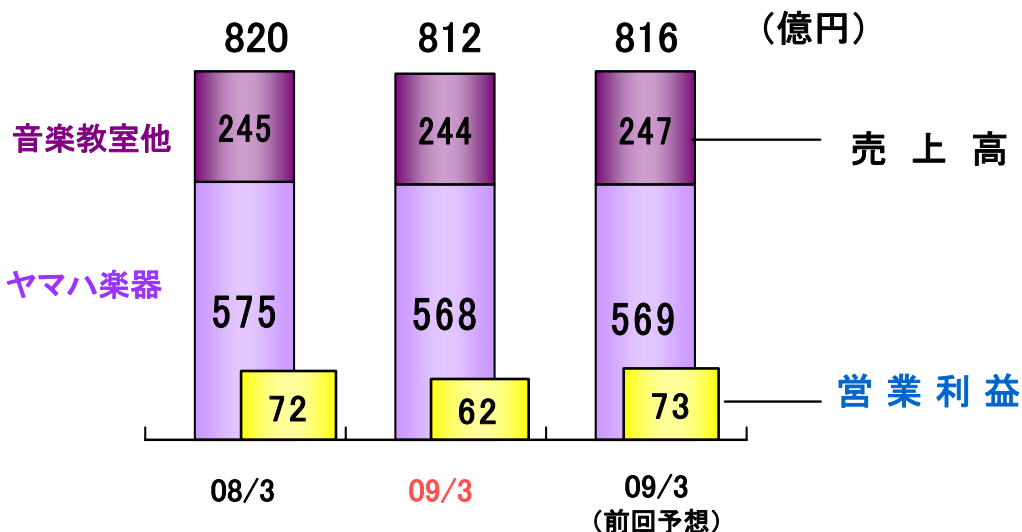
前期との比較での為替影響は▲150億円
(楽器▲117億円、AV・IT▲28億円、半導体▲5億円)
また、前回予想との比較では+44億円
(楽器+24億円、AV・IT+18億円、半導体+2億円)

前期との比較での為替影響は▲38億円
(楽器▲40億円、半導体+2億円)
また、前回予想との比較では+12億円
(楽器+12億円、AV・IT+1億円、半導体▲1億円)

* 08/3期の電子部品には、電子金属を含む。

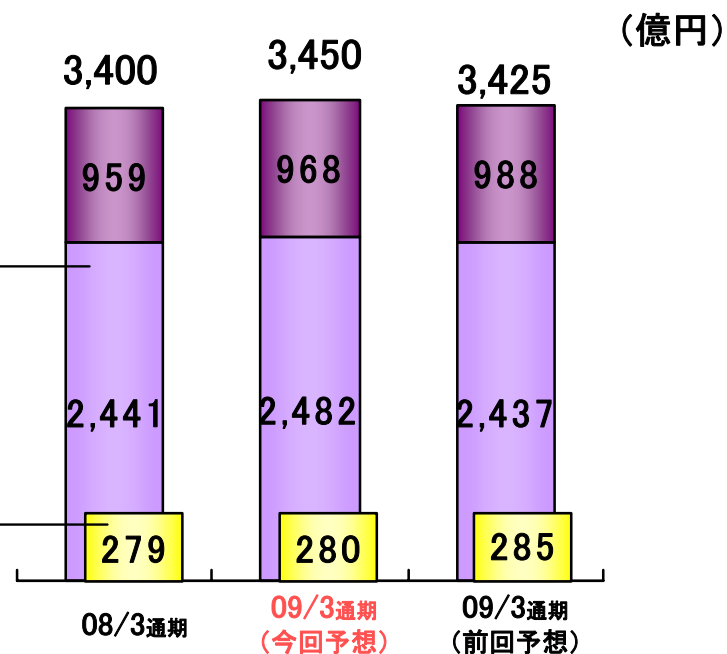
1Qの状況

- ・対前年同期減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期3.7% (30億円) の増収
- ・北米は減収となったものの、中国を含めた新興市場、欧州で増収。前回予想に対しても、北米で期待を大きく下回った
- ・商品別には、デジタルピアノ、ギターが対前年同期、前回予想とも増収。
一方、ピアノが国内、北米で苦戦
- ・営業利益は、為替損、退職給付債務の利差損の発生等で対前年同期減益。
前回予想との比較では、減収に加え、材料価格の上昇等による売上総利益率の低下で計画未達



通期予想と重点施策

- ・通期では前回予想に対し増収減益の計画
- ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期4.9% (167億円) の増収
- ・欧米年末重要期に合わせた新商品の確実な市場導入
- ・引き続き、新興市場(中国、ロシア、東欧、中東等)での成長加速
- ・出力系も含めた業務用音響機器ビジネス強化拡大
- ・杭州、インドネシア増産対応とコスト競争力強化



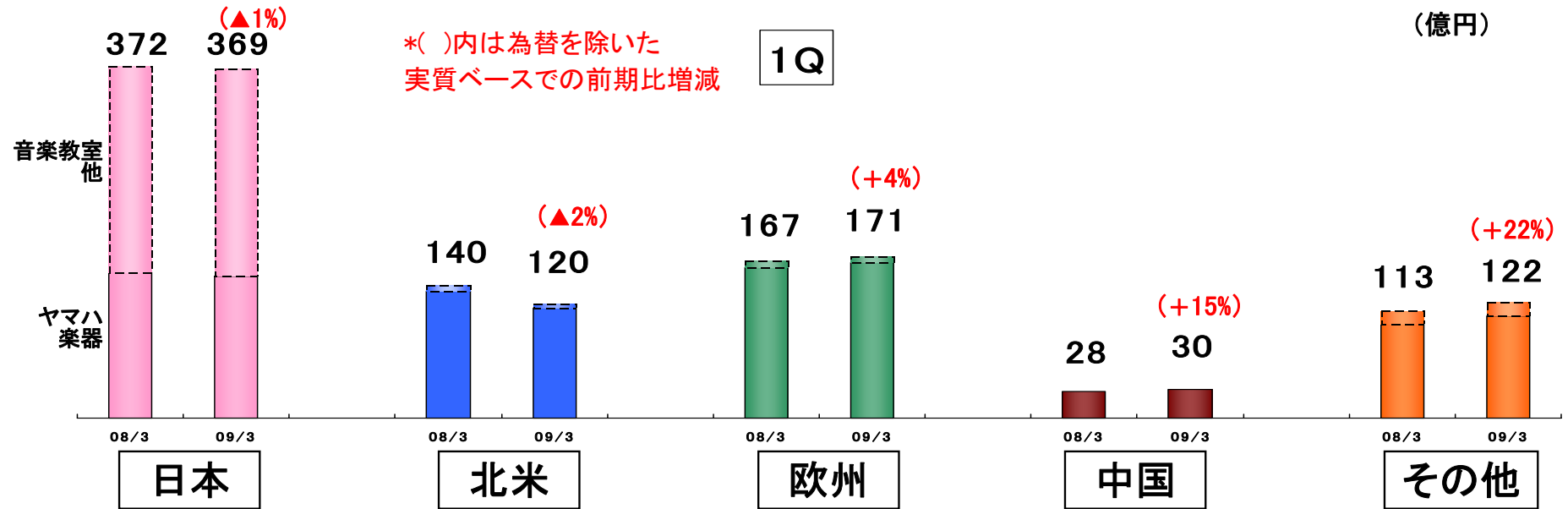
楽器事業(地域別の販売状況)



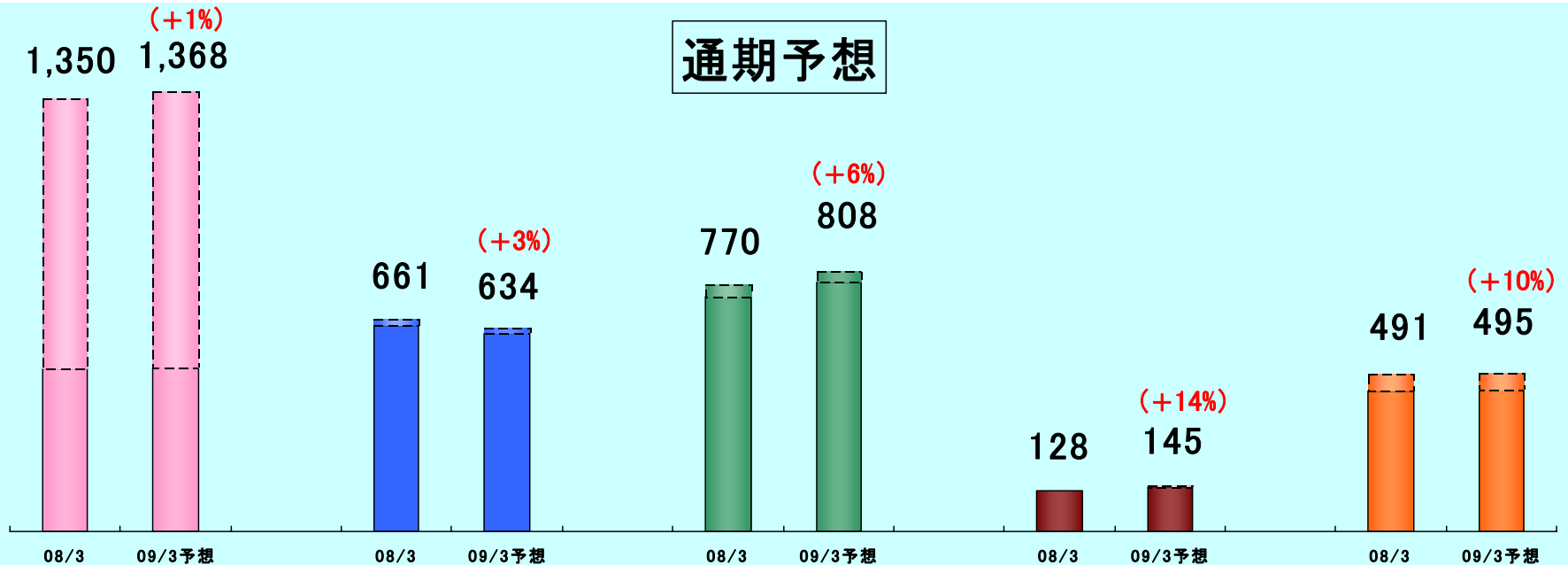
(億円)

* ()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

1Q



通期予想



楽器事業(地域別の販売状況)



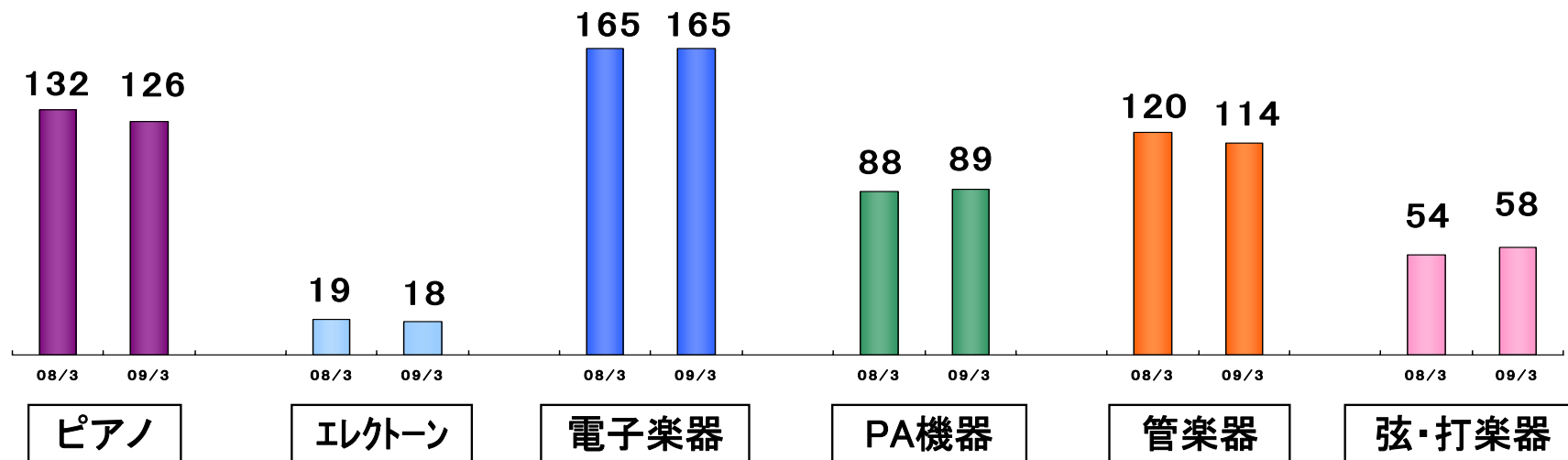
	楽器地域別状況
日本	大型鍵盤楽器(ピアノ、エレクトーン)が不調。 通期ではデジタルピアノ、管楽器でカバーし対前期横這いの計画。
北米	ピアノが住宅不況と連動して不調。管楽器・ギターは堅調。 PA機器はデジタルミキサー好調。出力系も上向き。
欧州	楽器は先進国で横這いとなっているが、中・東欧市場が好調。
中国	杭州製ピアノの増産でシェアを伸ばし、ほぼ予想通りの進捗。電子ピアノ、 管楽器も販売増に貢献。 通期売り上げは引き続き2桁増の見込み。
AP地域	現地販売は好調を維持。 ロシアは現地法人が本格オペレーションを開始。 インドは10月から営業開始に向け、販売網整備に着手。通期でも2桁増を目指す。

楽器事業(商品群別の販売状況)

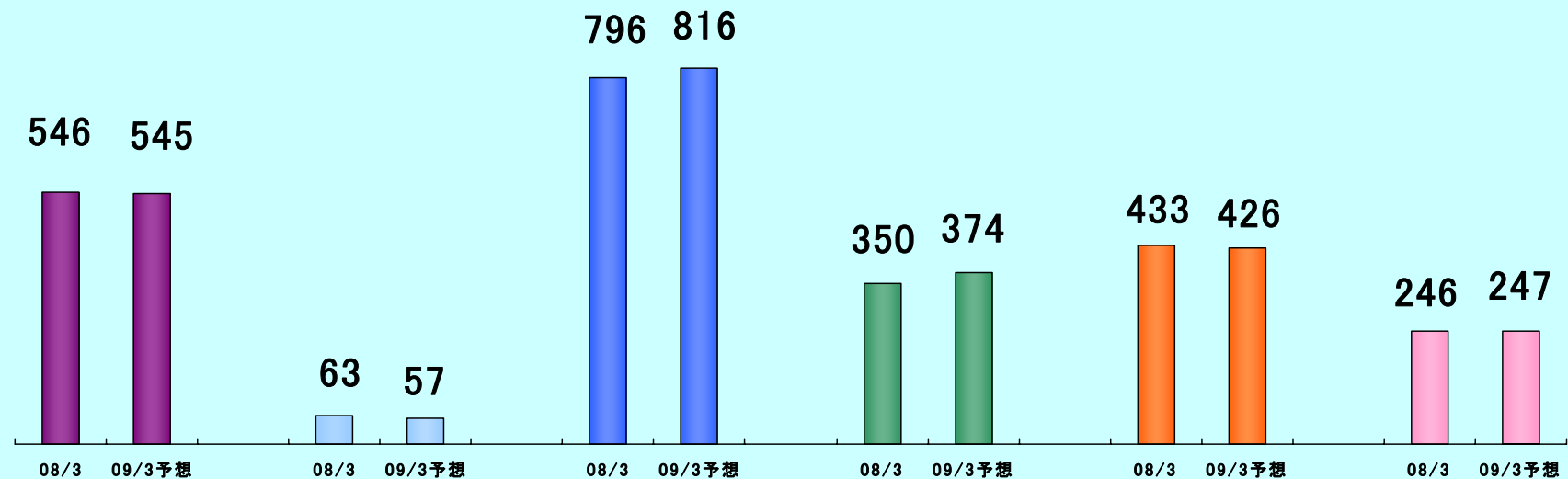


(億円)

1Q



通期予想



楽器事業(商品群別の販売状況)



楽器商品別状況	
ピアノ	1Qでは、日本、北米は市況低迷し、対前年同期売り上げ減少。欧州は国により、まだら模様の市況だが、インドネシア製低価格帯ピアノを中心に順調な出荷。中国、アジアパシフィック地域での伸び顕著。
電子楽器	1Qでは、デジタルピアノやポータブルキーボード新商品出荷が貢献し、対前年同期増収。2Q以降ではTyros3など新商品効果を期待。
管楽器	需要は北米、アジアともに堅調。日本、欧州がややスロー。高級品は概ね堅調に推移。
ギター・ドラム	北米を中心に、欧州、アジアともに生ギターが好調。特にエレクトリックアコースティックギターがヒット。ARE処理を施した高級生ギターLシリーズが市場で話題となっている。電子ドラムは前年同期比増。
PA機器	業務用デジタルミキサーの販売が好調を維持。また北米でのNEXO商品をはじめとし、スピーカー・アンプなど出力系商品も伸長。

1Qの状況

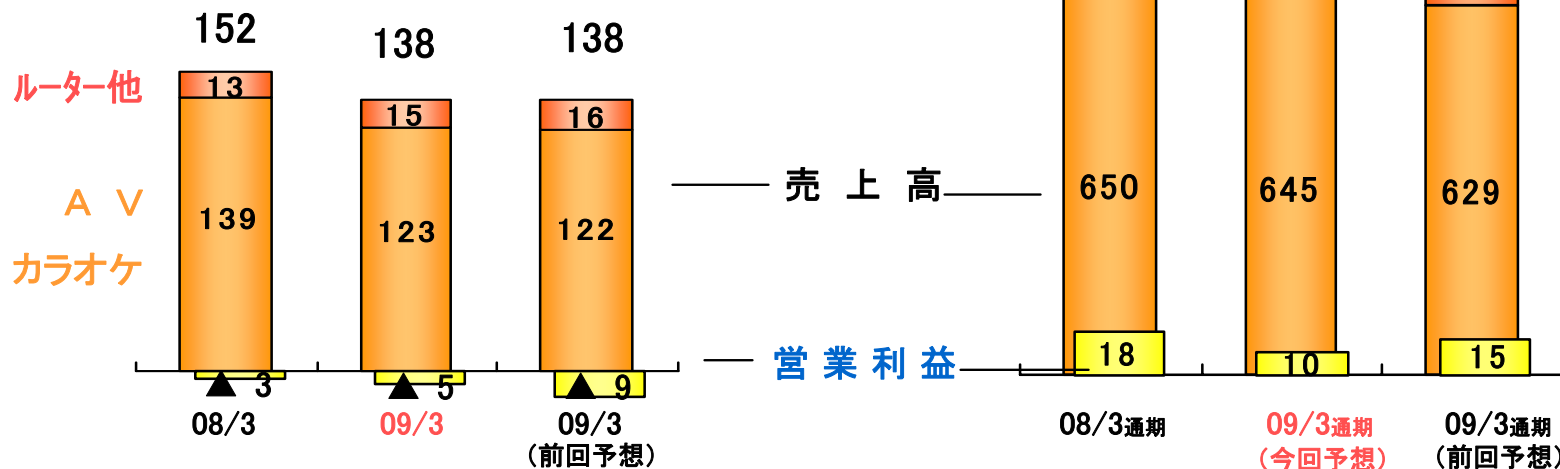
- ・対前年同期減収減益。前回予想に対しては、損失幅縮小
- ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期3.9%（6億円）の減収
- ・YSPは、期待値を下回るものの、対前年同期増収（1Q売上高 14億円）

通期予想と重点施策

- ・通期営業利益を下方修正
- ・市場の変化に合わせたAVビジネス構築
フロントサラウンドシステム強化拡大
中高級レシーバー拡販
デスクトップオーディオ等新ジャンル商品開発と市場導入
HiFiオーディオ強化
品番見直しを含めた製造原価の低減
- ・会議システムは引き続き、認知度向上と販路開拓がテーマ

（億円）

（億円）

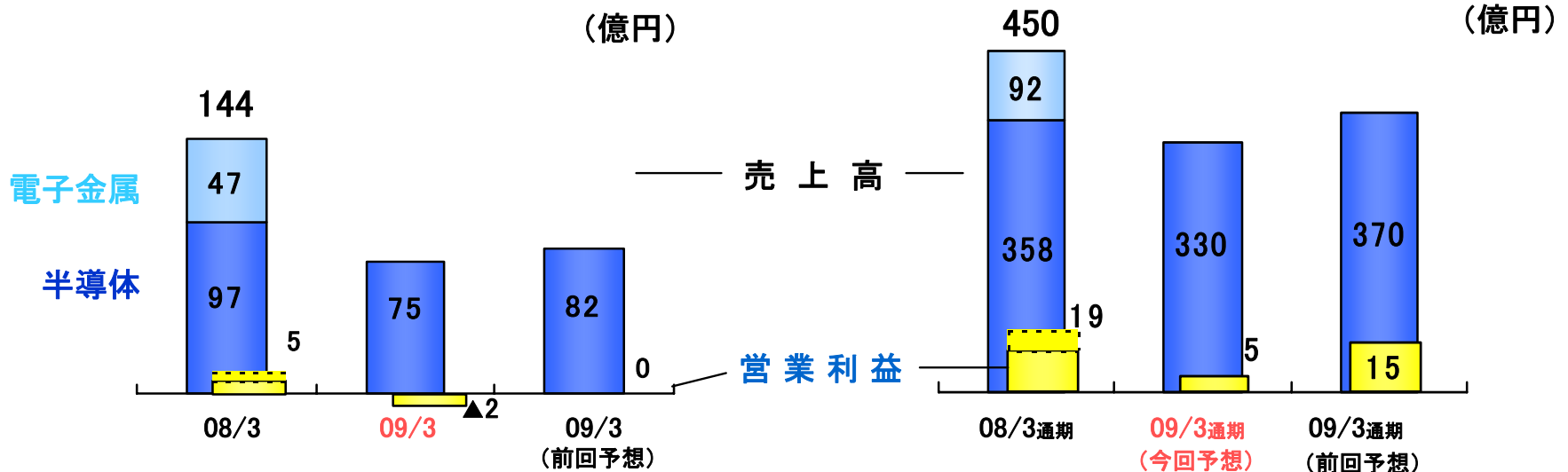


1Qの状況

- ・前回予想に対し減収。損益面では、前四半期(4Q)に続き、営業損失計上
- ・売上高は携帯電話用音源LSIの減少継続とアミューズメントLSIの市場導入遅れにより、対前年同期大幅な減少
前回予想との比較では、アミューズメントLSIの市場導入遅れで売り上げ未達

通期予想と重点施策

- ・通期売上高、営業利益とも前回予想を下方修正。携帯電話用音源LSIの需要減少とアミューズメントLSIの減少が主因
- ・付加価値提供による携帯電話用音源LSIビジネスの維持
- ・アミューズメントLSI、デジタルアンプ拡販
- ・シリコンマイクの顧客開拓と量産軌道乗せ

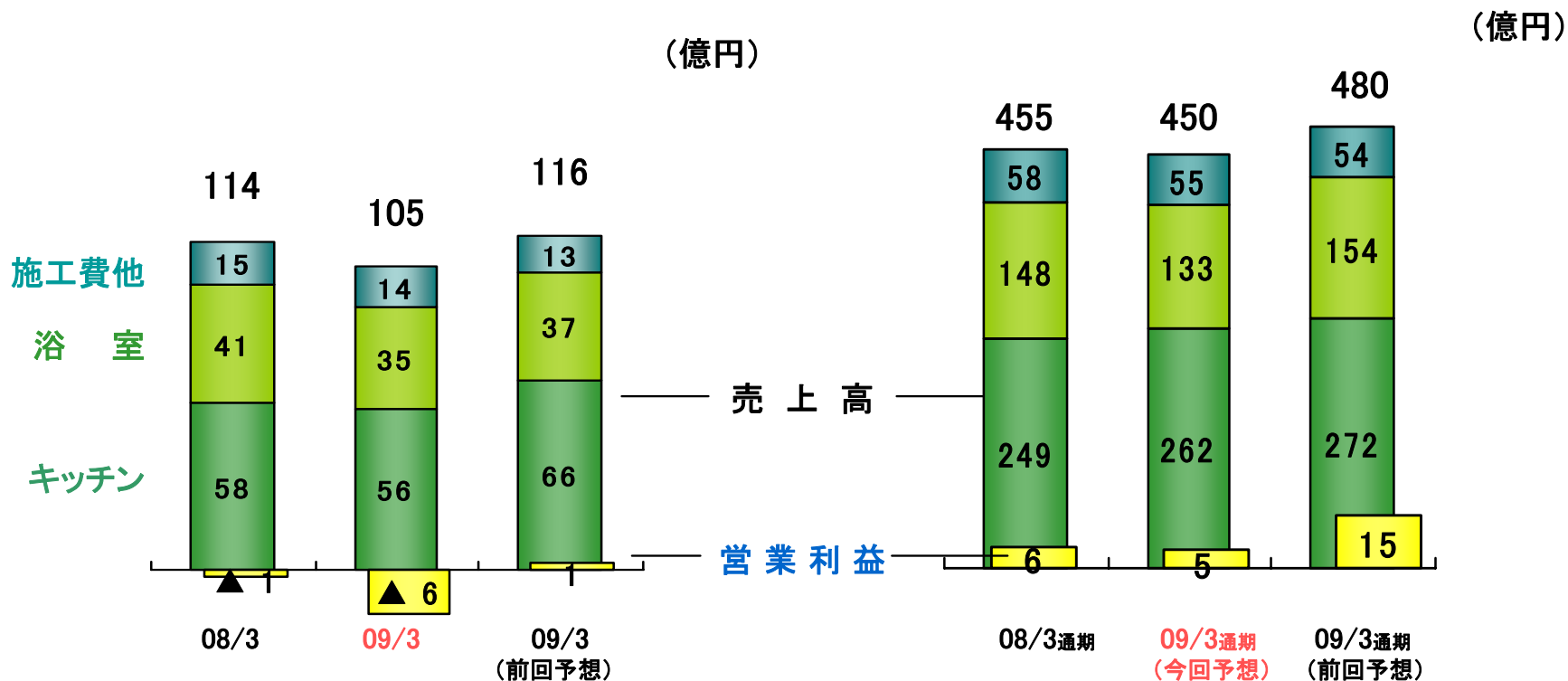


1Qの状況

- ・対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・キッチン、新築住宅着工数の前年割れが続く中、四半期ベースで05/3期(3Q)以来、約4年振りに前年同期割れ。浴室も対前年同期減収
- ・ショールーム展開の強化により、リフォーム比率は若干の上昇

通期予想と重点施策

- ・通期売上高、営業利益とも前回予想を下方修正
- ・強みとする人造大理石訴求により、主力のシステムキッチン拡販
- ・販路開拓、ショールーム展開によるリフォームビジネス強化



その他の事業

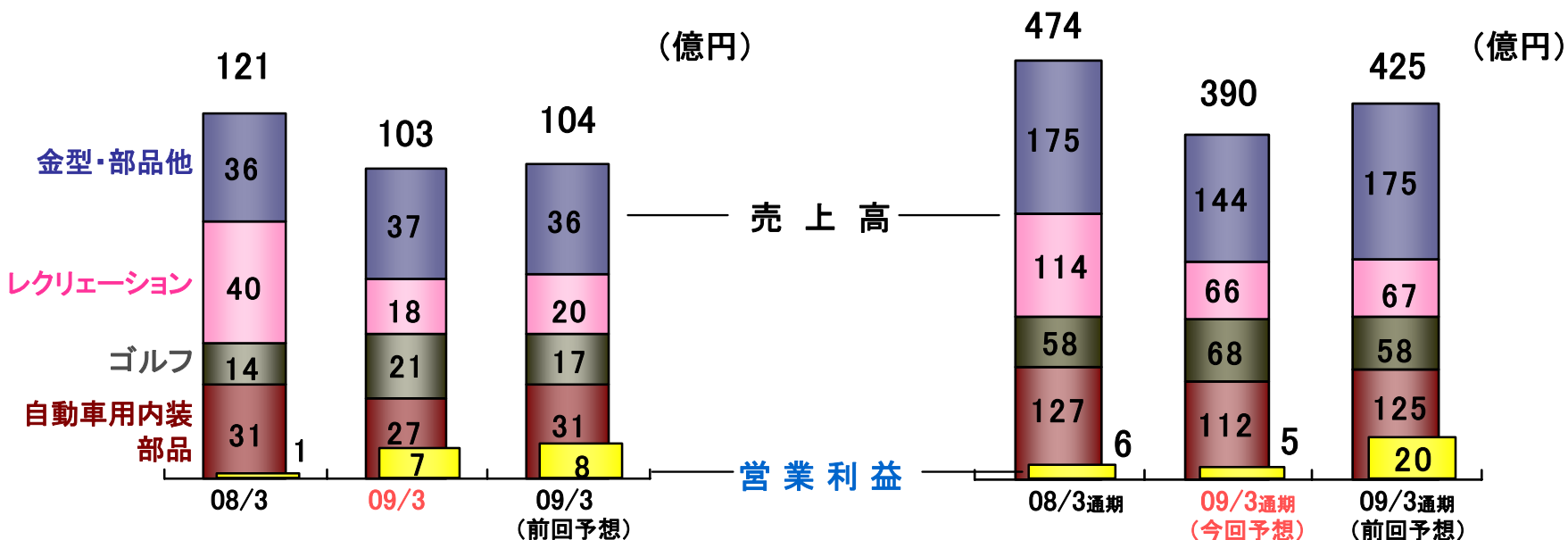


1Qの状況

- ・レクリエーション事業は、不採算施設の譲渡に伴い、対前年同期で損益改善
- ・自動車用内装部品は、完成品メーカーの減産により、前年同期、前回予想とも未達
- ・マグネシウム部品は、歩留まり改善に遅れ
- ・ゴルフは、国内、アジア市場とも好調継続

通期予想と重点施策

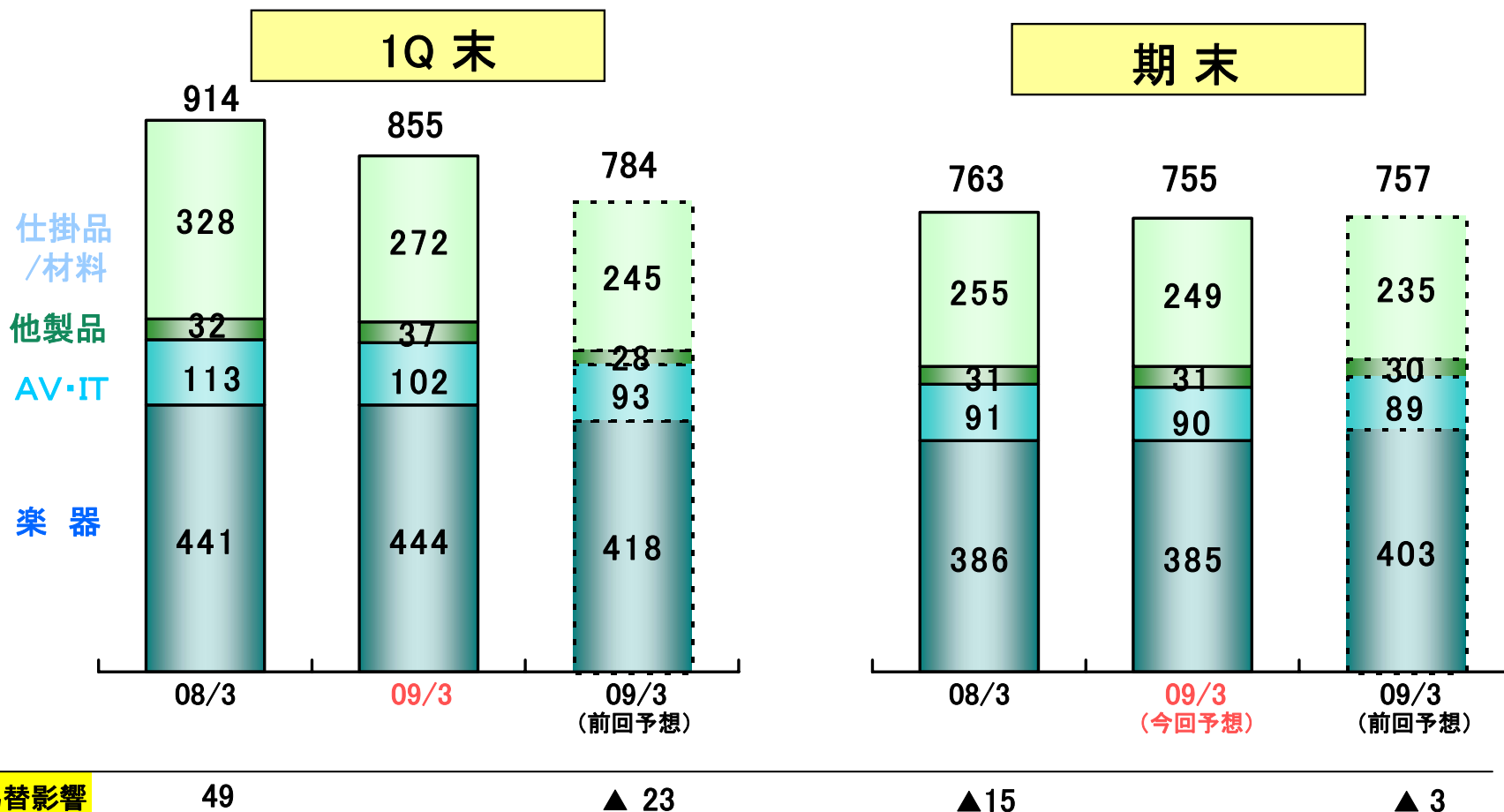
- ・自動車用内装部品の受注減少と携帯電話のマグネシウム離れで、通期業績予想を下方修正
- ・自動車用内装部品、マグネシウム部品とも、歩留まり向上による製造原価の低減に注力
- ・好調なゴルフは引き続きinpresブランド訴求による拡販
- ・レクリエーションは材料コスト高はあるものの、集客確保と一層の営業効率の改善により収益改善を目指す



棚卸資産

- 1Q末総在庫は対前年同期 59億円の減少。
(事業譲渡した電子金属在庫および為替影響を除けば実質35億円の増加)
- 前回予想に対しては、為替影響を除けば、実質48億円の増加

(億円)



予想貸借対照表



	1Q末			期末予想		
	07/6末	08/6末	増減	08/3末	09/3末	増減
現預金	922	665	▲257	1,040	625	▲415
売上債権	769	685	▲84	651	703	52
棚卸資産	914	855	▲59	763	755	▲8
他流動資産	309	287	▲22	303	329	26
固定資産	3,661	2,698	▲963	2,646	2,876	230
資産計	6,575	5,190	▲1,385	5,403	5,288	▲115
仕入債務	463	379	▲84	350	373	23
借入金	307	229	▲78	210	193	▲17
リゾート預託金	187	170	▲17	170	170	0
他負債	1,578	1,082	▲496	1,243	1,183	▲60
純資産計	4,040	3,330	▲710	3,430	3,369	▲61
負債純資産計	6,575	5,190	▲1,385	5,403	5,288	▲115

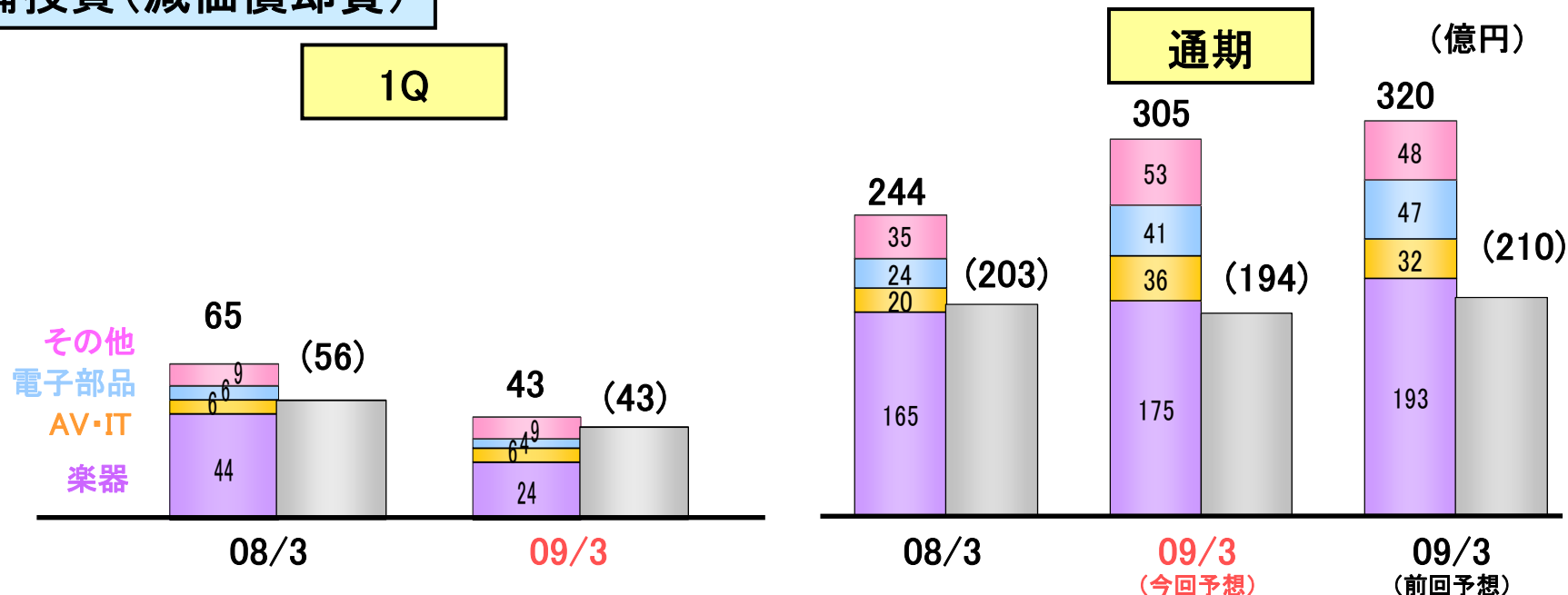
※現預金残高には譲渡性預金を含む

付属資料

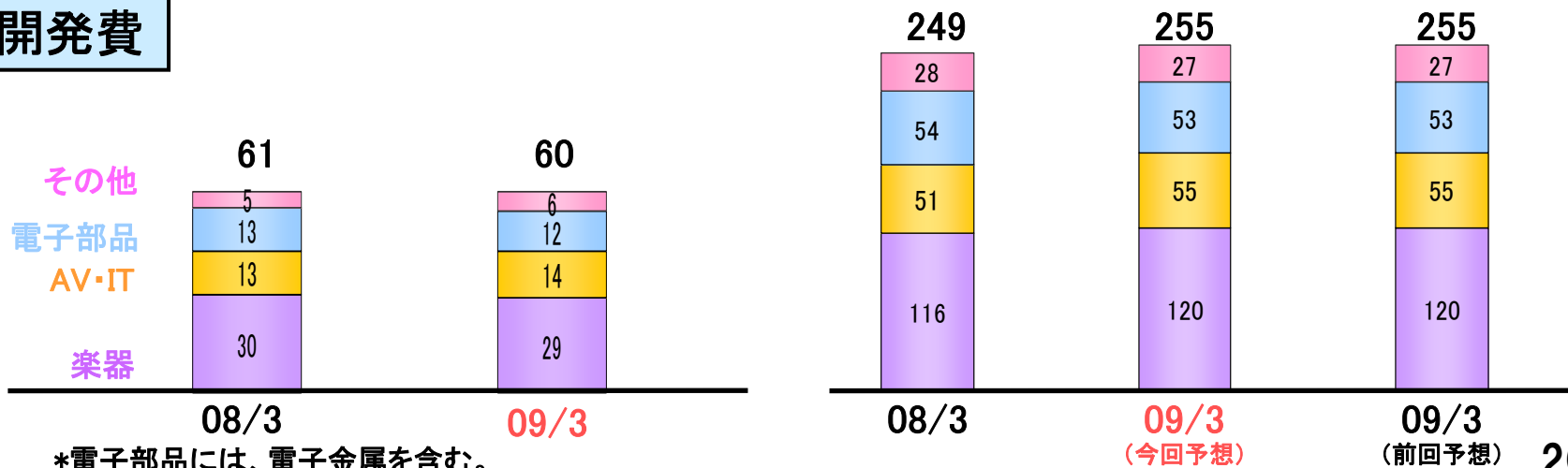
設備投資・減価償却費/研究開発費



設備投資(減価償却費)



研究開発費



*電子部品には、電子金属を含む。

2009/3期 1Q営業外損益、特別損益



	08/3(1Q)実績	09/3(1Q)実績	09/3 (1Q)前回予想
			(億円)
営業外損益			
金融収支	9	7	4
その他	▲ 7	▲ 6	▲ 11
計	+ 2	+ 1	▲ 7
特別損益			
固定資産処分損益	▲ 1	▲ 2	▲ 1
その他	279	0	0
計	+278	▲ 2	▲ 1
<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; display: inline-block;"> ヤマハ発動機株式売却益 278 </div>			
法人税他			
法人税等	119	43	24
少数株主利益	2	1	0
計	121	44	24

2009/3期 1Q営業外損益、特別損益



	08/3実績	09/3今回予想	09/3 前回予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	29	21	18
その他	▲ 31	▲ 41	▲ 48
計	▲ 2	▲ 20	▲ 30
特別損益			
固定資産処分損益	8	▲ 7	▲ 5
その他	291	▲ 3	
計	+299	▲ 10	▲ 5
法人税他			
法人税等	222	106	104
少数株主利益	7	4	6
計	229	110	110

・ヤマハ発動機配当金 17

・ヤマハ発動機配当金 17

・ヤマハ発動機株式売却益 278

・特別退職金 ▲8

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。